

CNSニュースレター

2025
秋冬号
vol. 41

～千葉の地から、千葉のチカラ～

発行元:NPO 法人千葉自然学校

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階

電話:043-227-7103 FAX:043-202-7237

HP:<http://www.chiba-ns.net> メール:info@chiba-ns.net



「文化が色濃く残る房総の川」

千葉自然学校は、持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでいます。



千葉県立君津亀山青少年自然の家

千葉県立君津亀山青少年自然の家周辺は、森が広がり川や沢など豊かな自然が色濃く残る地域です。当施設ではそんな自然を体感してもらうためにさまざまなアクティビティを展開しており、川の自然や文化を体感してもらう「川探検ツアー」というものもあります。川の中を歩いていると「二五穴」や「川廻し」に出くわし、人々の暮らしの工夫や文化にも触れることができます。

「二五穴」とは、田んぼに水を引くための横幅二尺、高さ五尺(約 60cm×150cm)のトンネル状の灌漑システムのこと。房総丘陵は谷深く、川と田んぼの高低差があり川から直接用水として利用するのが難しかったため、同じ標高の川からトンネルを掘って川の水を用水として利用しました。

「川廻し」は、蛇行した河川のくびれ部分をトンネルや切通しで短絡化し、旧河道を水田化させた工事で、利点として水田と川との高低差はないため川から用水を引きやすいということです。川廻しによる開田は 17 世紀から昭和初期まで続いたそうです。

また、川に住んでいるたくさんの生物たちにも出会います。そっと水面を覗き込むとウグイやオイカワが元気に泳ぎ、耳を澄ませると美しいカジカガエルの鳴き声が聞こえてきます。房総の川は泥岩や砂岩質が多いため美しいナメ床が広がる房総特有の美しい景観を擁し、そんな中を遡行するのは格別です。これからの季節は紅葉もきれいです。川に入るにはちょっとひんやりしますが、紅葉を楽しみつつ房総特有の川の自然や文化に触れてみませんか。



房総特有の美しい溪相。ナメ床が広がり気分も上々です。川の自然を全身に浴びながら歩き進みます。



文：香山 正幸 (かやまん)

千葉県立君津亀山青少年自然の家 副所長

事業現場レポート

大房
岬

8/4～7 岬の楽校～高学年キャンプ～



大房岬で3泊4日の高学年向けキャンプを行いました。キャンプでは自分たちで食事を作って生活するのはもちろんですが、アクティビティも自分たちで決めて行います。みんなで話し合い、大房岬の探検、ウミホタルの観察、海遊びやたき火で焼き鳥作りを楽しみました。

今年はキャンプの日程と地元富浦漁港でのサンマ漁船第一安房丸の出発式が被ったため、見学をさせていただきました。市長や船長の話を聞き、紙テープを持ってお見送り。子供からは「テレビで見た景色を実際に見られて嬉しい！」と大盛り上がり。夏休みをギュッと凝縮したような熱い3泊4日を過ごすことができました。

安房丸の前で記念撮影！とっても大きい船ですが、安房丸が所属する船団の中では一番小さい船だそうです。きっと今年の秋刀魚はいつもよりおいしく感じるのでは？



君津
亀山

10/6 お月見どろぼう



君津市折木沢地区で「お月見どろぼう」を実施しました。お月見どろぼうとは十五夜のお供え物（お菓子）を子どもたちが頂く（どろぼうする）この地域の伝統行事です。今回は4軒のおうちにご協力をいただき、子どもたちが持ってきた袋はお菓子でいっぱい！地域の方も子ども達も笑顔あふれるイベントとなりました。

ご協力していただいた地区の方からは「昔は子どもがたくさんいたが今ではすっかりいなくなった。こうして子どもを連れてきてくれてありがたい。」とお話していただきました。

お月見どろぼうに限らずこのような伝統文化は少子化や後継者不足などが原因で途絶えてしまう危機があります。これからも地域の方々とのつながりや伝統文化の保存、そして子どもたちの笑顔を作る大切な機会づくりの場を継続していきたいと思います。

シニア

10/30-31 ハケ岳研修旅行

現役生12名、OB22名、講師・事務局など含め総勢45名のバスツアーを開催。大型観光バス満席の賑やかなツアーとなりました。

当日は好天のおかげで標高2,237mの展望デッキからのハケ岳連峰や日本三大アルプスのパノラマは絶景に恵まれました。中村俊彦先生、新和宏先生による植生や黒曜石などの解説を聞きながら坪庭を散策し、ハケ岳の自然を堪能しました。

2日目は苔の森「もののけの森」に入り、苔の解説を受けながら「白駒の池」を一周。神秘的な苔の森に癒されました。最後は茅野市尖石縄文考古館で、学芸員からの解説と国宝「縄文のビーナス」「仮面の女神」を見学し、帰路へ。自然や史跡を学べた充実した2日間となりました。



文：吉岡 章次

自然学校×ネットワーク会員校

「独立して 20 年」

この夏、勤めていた頃の元上司から暑中見舞をいただきました。40 歳で退職し、来年還暦を迎えるのももうじき 20 年。はがきには「いかがしていますか？」との事。「鳴かず飛ばずですが、死なない程度には喰えています。」と、返信しました。

得意分野の生き物を通じ、人が生きる術を自ら身に付け、子供達に伝えていく。そんな事をやりたくて独立し、羊を飼い、主だった収入は君亀や草刈りなどのアルバイトですが、時折羊毛玉ストラップのオーダーや、イベント出店等の「本職」の仕事も入りました。

令和元年五月一日（令和最初の日）に、最後の羊が星となり、今、ライブストックには猫が一匹居るだけです。コロナ禍を経て、それほど広くはありませんが、放牧していた所をキャンプ場に、グランピングならぬ「野良ンピング」として、時折便所の不具合で営業中止もありますが、リピーター中心にキャンプ上級者向けの営業をしています。

最近、わら細工、竹細工指導のオーダーもあり、動物や羊に限らず、「生きる術」を幅広く教えています。



ライブストック 黒木誠さん

ペンネーム:黒栖 庵(くろすあん)



竹を使って流しそうめんの器や流し台作り。手仕事の技術を伝えていきます。

まだ 40 代の頃、自然体験会にスタッフとして参加した時、初老のボランティアスタッフに、「仕事は？」と聞かれ、「これです。」と答えたのに、にっこり笑って「で、本業は？」と聞かれました。

自然体験指導員がそれだけで生活出来、一般の人々に認知してもらえるようになるという事も私の目標の一つです。

これから私も老人の域に入っていきますが、今後も色々な事を学び、多くの子供達に伝えていきたいと思えます。

取材：庄司達哉（しゅれっく）

自然学校×コーディネート事業

私立高校 1 年生体験コーディネート

都内私立高校の 1 年生が南房総エリアの自然に根付いた仕事を体験し、地域が抱える課題について考えるというこの体験コーディネート事業。早いもので 5 年目となりました。

今年度は 365 名の生徒がやってきて 2 日間にわたり 5 コースに分かれて活動。棚田の生きもの観察やわら細工を行う「大山千枚田保存会」、沖の島探検や森づくり体験を行う「たてやま海辺の鑑定団」、農業体験を行う「オンザファーム」、酪農体験を行う「須藤牧場」、ジビエ解体見学や狩猟体験を行う「アルコ」と、南房総の匠を講師に多種多様な体験を行いました。

どのコースでもその産業が抱える課題についても学び、高校生にとっては楽しい体験だけではない深い学びとなったようです。休憩中も講師の方に質問に行く様子も見られ、意義のある時間を過ごしていました。



文：山口亮介（こめ）

大房岬自然公園 公園長

また、体験日は 9 月 3 日、4 日と残暑の厳しい日でした。昨今の猛暑や雨不足といった異常気象が自然に関わる産業に如何に影響しているか、身をもって体験できたかと思います。

この 2 日間の体験で得たことは高校生の中にどれだけ残るでしょうか。自然があるからこそ街の生活がある、そんなことを感じてくれて、今後の行動のきっかけになってくれたらと願います。

アルコにてイノシシの解体の見学の様子。最初は遠巻きに見ていた高校生達も、気づけば近くで食い入るように見ていました。まだ温かい内臓を触って「生命」というものを感じられた様です。



不易流行

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。



文：久保田 康雄

千葉自然学校 理事長

最近、「体験の格差」といった話題を耳にするようになり、体験の重要性が指摘されるようになってきました。また、よく似た言葉に「経験」という言葉がありますが、「体験」と「経験」はどのように違うのでしょうか。

体験とは、実際にやってみたり、見たり、触れたりすることそのものを指します。例えば、山に登ったり、火をおこしたりすることは「体験」です。しかし、ただ体験するだけでは、それが自分の力になるとは限りません。大切なのは、その体験を振り返り、「どう感じたか」「何に気づいたか」を自分の中で整理することです。例えば、火おこしに挑戦してうまくいかなかったとき、「なぜうまくいかなかったのか」「どうすればよかったのか」と考え、次は工夫してみる。そんなふうに自分の行動を見つめ直すことで、それが「経験」となり、学びへとつながっていきます。簡単に言えば、「体験」に知恵や工夫が積み重なることで、「経験」になるということです。

また、体験が経験になるためには、「心が動くこと」も大切です。山の上から見た景色への感動、つらい登り道をがんばって登りきったときの達成感、助け合っ

た仲間への感謝の気持ちなど。このように心が揺さぶられる体験は、強く記憶に残り、自分の中に深く刻まれていきます。こうした「感動する心」があることで、体験はただの出来事ではなく、かけがえのない「経験」へと変わっていくのです。

このようにして積み重ねられた経験は、将来、新しいことにチャレンジするときにも大いに役立ちます。未知のことに出会っても、過去の経験をもとに、自分で考え工夫するなど、自然に身についた力によって対応できるのです。体験を豊かな経験に変えていくには、心を開いて感じることに、振り返って考えることに、そしてまわりの人と分かち合うことも大切です。さあ、皆さんも、たくさんの体験を通してよりよい経験を積み、豊かな人生を歩んでください。



ご寄付のお願い～古民家ろくすけの維持管理に向けて～

築200年をむかえた古民家「ろくすけ」。今年の春には皆さまからの寄付を活用して母屋屋根一部の茅替えと、損傷が激しかった長屋門の解体を行いました。今年も子ども達のホームステイや、ご家族でのご利用等、ろくすけににぎやかな声が溢れることでしょう。ぜひ新しいろくすけを楽しんでもらえたら幸いです。引き続き皆さまからのご支援をお待ちしています。(一口 3,000 円)

▼振込先(郵便局/払込取扱票を使用)

振替口座 00170-5-259431

加入者名 特定非営利活動法人 千葉自然学校

※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。

【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号

【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

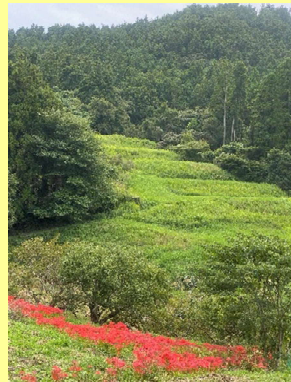
▼振込先(銀行)

千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275

特定非営利活動法人 千葉自然学校 理事長 久保田 康雄

※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所(下記)へお知らせください。

10月初旬。今年は少し遅めでしたが
庭のヒガンバナが満開でした。



NPO 法人千葉自然学校

【指定管理施設】

□千葉県立君津亀山青少年自然の家

□南房総市大房岬自然の家

□千葉県立大房岬自然公園

【管理施設】

□古民家ろくすけ



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。